

森の中に憩い、土の上に立つと

園長 小島 澄人

森の中に入ると気持ちが安らぎます。土の上に立つと元気が出ます。年齢を問わず誰にでも共通することかもしれない。10月には、いろいろな会社の社長さんたちが大勢幼稚園に見学に来ました。また、幼稚園の園長先生たちもたくさん研修にやってきました。聞こえてきたのは、「気持ちがすっきりしますね」「うーん。落ち着きますね」、別の方は「この子たちは幸せだなあ、いきいきしてるし、笑顔が凄い」、また森に案内すると「ここ、2, 3度違いますね、別世界です」「私も小さい時からここで過ごしたかった」、感想が様々でした。私も同感です。

幼稚園、いきいきして活気があって、挨拶が飛び交って、子どもたちが元気だ、というのが来園した方たちが抱いたものでした。教える内容や保育方法等、変わっては来ても、幼稚園には「森と土」、どうしても必要なものに思えてなりません。いつまでも残し、絶えず子どもたちにはその中で遊んでもらい、自然の中で育ち、自然を育て守っていただきたい、そう思いました。

運動会、3つの幼稚園とも素晴らしかったです。いいですね、本当に運動会は。私も70過ぎでの走り、何とか走り切れましたが、玉川中央での走りで、太ももに違和感があり、少々痛む程度でしたが、二日後に赤黒くなってしまいました。年に一回の全力での走り、運動しないでの運動会でした。やはり事前に運動しなくてははいけませんね。今度は、事前に調整して頑張りたいと思います。子どもたちにとって、あんなに大勢のお客さんの前での運動会、本当にいきいきしてました。素敵でしたし、大きな自信になったことでしょう。運動会、そして発表会は、子どもたちを、大きくし、また幼い時の思い出として残っていきます。

先日、ある方の葬儀に参列しましたが、亡くなった方は元保護者、卒園児の方が喪主、そのお子さん、またそのお子さんもうちに入るとか、4代にわたっての関わりにびっくりするとともに、感謝でした。その葬儀を執り行う方も卒園児でした。みんな懐かしく、幼稚園のことでお話が弾みました。その中身はもっぱら運動会の話でした。私の「プーさんでの走り、びっくりしました」、と、懐かしんでいました。会場にいる方の大半が卒園児、保護者、いつまでも幼稚園の元気な姿を見せていかなくてはと。

大根が大きくなってきています。一日一日、ぐんぐん大きくなります。私には不思議で、ものすごい存在です。誕生会での話でも、毎年どこかでその話になりますが、本当に不思議な大根です。小さな小さな種、赤い種、子どもが小さな手に大事に握りしめたその小さな種があんなに大きな白い大根、しかも美味しい。どんな生き物もそうかもしれませんが、本当に不思議です。子どもたちのそうですね。あのよちよちだった満三歳の子どもが、お客さんと歩いている私に、「おはようございます。園長先生!」、そしてお客さんにも挨拶しているのです。嬉しくなります。